

21日 金曜

Ⅱ サムエル



6:16 【主】の箱がダビデの町に入ろうとしていたとき、サウルの娘ミカルは窓から見下ろしていた。彼女はダビデ王が【主】の前で跳ねたり踊ったりしているのを見て、心の中で彼を蔑んだ。

6:17 人々は【主】の箱を運び込んで、ダビデがそのために張った天幕の真ん中の定められた場所にそれを置いた。ダビデは【主】の前に、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げた。

6:18 ダビデは全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げ終えて、万軍の【主】の御名によって民を祝福した。

6:19 そしてすべての民、イスラエルのすべての群衆に、男にも女にも、それぞれ、輪形パン一つ、なつめ椰子の菓子一つ、干しぶどうの菓子一つを分け与えた。民はみな、それぞれ自分の家に帰った。

6:20 ダビデが自分の家族を祝福しようと戻ると、サウルの娘ミカルがダビデを迎えに出て来て言った。「イスラエルの王は、今日、本当に威厳がございましたね。ごろつきが恥ずかしげもなく裸になるように、今日、あなたは自分の家来の女奴隷の目の前で裸になられて。」

6:21 ダビデはミカルに言った。「あなたの父よりも、その全家よりも、むしろ私を選んで、【主】の民イスラエルの君主に任じられた【主】の前だ。私はその【主】の前で喜び踊るのだ。」

6:22 私はこれより、もっと卑しめられ、自分の目に卑しくなるだろう。しかし、あなたの言う、その女奴隷たちに敬われるのだ。」

6:23 サウルの娘ミカルには、死ぬまで子がなかった。

ダビデは主がおられることを心から純粋に喜び、そしてそれを表しました。彼にとっては主がおられることの喜びは、自分の王としての立場や威厳よりも大きかったのです。一方ミカルは王の娘であることがプライドであり、そのような格式や見栄えの方が大切であったようです。

これは私たちも自省すべきところです。どれだけ主の存在を喜んでいるでしょうか。礼拝や日常生活ではどうでしょうか。それよりも人間的な見栄え、格式や伝統に捉われてはいないでしょうか。または自分自身のプライドにこだわり、主御自身の喜びやみわざやまた優先順位を見逃してはいないでしょうか。

当時、王に子どもを産まなかった王妃が祝福されていないと見なされたように、私たちもまた主を喜ばないなら祝福を逃すことさえあるかもしれません。ダビデのように、主を喜ぶことには純粋で大胆でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

